

【学校評価資料】

総社小学校

学校経営目標	具体的計画	令和5年度の達成基準	自己評価(中間)			自己評価(最終)			学校関係者評価
			達成状況	評価	改善策	達成状況	評価	改善策	
1 心の教育の充実	【やさしい子】 ①道徳教育、人権教育、総社っ子応援プロジェクトの取組を充実することにより、児童同士の絆や思いやりの心を育て、長期欠席・不登校やいじめの未然防止に努める。 ②「すきだ総社小学校運動」ですんで挨拶、きちんと歩行、だまって掃除を推進するとともに愛校心を育てる。(総社を愛す子供)(心優しい子供)(礼儀正しい子供)	①思いやりの心をもって生活しているという回答が85ポイント以上である。 【児童・保護者・教職員】 【人間関係・特別支援教育】	児童:87.5p 〇周りの人の優しさ 児童:88.9p 〇思いやり 保護者:85.2p 教職員:91.2p	A	・道徳の授業、くすの葉の取組等を通して、児童の思いやりの心の育成に努めてきた。2学期以降も、児童同士の絆を深められるように今の取り組みを継続していきたい。	児童:86.1p 〇周りの人の優しさ 児童:88.3p 〇思いやり 保護者:84.9p 教職員:94.4p	A	・道徳の授業、くすの葉の取組等を通して、児童の思いやりの心の育成に努めてきた。3学期以降も、児童同士の絆を深められるように今の取り組みを継続していきたい。	自己評価は適切である 道徳の授業やくすの葉の活動など、児童の絆を深めるための継続した取り組みが成果につながっていると評価することができる。今後も継続していただきたい。
			児童:82.2p 保護者:81.8p 教職員:88.5p	B	・挨拶運動では、多くの児童が参加することができたが、達成基準には至っていない。挨拶運動を継続して取り組むとともに、全教職員で声掛けを続けていきたい。	児童:82.0p 保護者:82.4p 教職員:90.5p	B	・挨拶運動は多くの児童が参加できている。この伝統は継続していきたい。 ・挨拶運動だけでなく、教室やホールでの挨拶や会釈を取り上げたり、月初めの挨拶のめあてを学級内で確認したりすることで、学校生活全体で挨拶が広まるようにしていきたい。	自己評価は適切である 保護者の達成状況が、昨年度および今年度中間期の達成状況より向上している点を評価することができる。引き続き、学校・家庭・地域と連携した取り組みに期待したい。
2 健康・体力づくりの推進	【たくましい子】 ③健康教育、特別活動を充実することにより、児童に基本的な生活習慣を身に付けさせる。総社東中学校ブロックの学校園と連携し、ノーマディアの取組を推進する。 ④目標をもって主体的に体力づくりに取り組み、体力の向上を図るとともに最後まで粘り強く頑張る態度を育てる。	③感染症対策として手洗い・換気等を行っているという回答が80ポイント以上である。 【児童・保護者・教職員】 【保健安全】	児童:89.8p 保護者:90.9p 教職員:89.4p	A	・手洗いが習慣化している児童が多い。夏休み明けに、保健委員会と連携して「手洗いバズル」の取組を行い、手洗いの意識向上に努める。また、感染症の流行する時期には、手洗い、換気についての呼びかけを強化する。	児童:86.5p 保護者:91.5p 教職員:91.7p	A	・学習環境や学習活動に応じて手洗い、換気の呼びかけを強化する。 ・感染症の流行する冬季に、保健委員会では、「手洗いカード」の取組を行い、手洗いの励行に努める。	自己評価は適切である 昨年度と比較して、保護者の達成状況が向上しており保護者の意識が高まっている点を評価することができる。「手洗いカード」などの積極的な取り組みが素晴らしい。
			児童:88.8p 保護者:82.3p 教職員:83.5p	A	・メディアとの付き合い方について、授業や学級懇談、学年だより等で啓発を行った。今年度から3年生以上の児童はタブレットの持ち帰りが増えており、メディアに触れる時間が増えることが予想される。引き続き各家庭でメディアとの関わりが考えられるような呼びかけを、学年だよりや学級懇談等で行っていく。	児童:87.2p 保護者:81.1p 教職員:86.9p	A	・第3回のメディアコントロール週間後から、児童用タブレットを使って個人で集計を行うようにした。集計結果が円グラフに示されることで、自分の取組を振り返りやすくなった。今後も継続していく。 ・3～6年生の保護者向けに、各学年のメディアコントロール週間の取組を集計したものを配布し、各家庭での声掛け等に役立てられるようにした。	自己評価は適切である 児童の達成状況が85%以上であり、メディアとの付き合いについての習慣化が見えるデータである。タブレットの活用による見える化、家庭へのフィードバックの工夫等の取り組みを評価することができる。加えて、昨年度と比較し保護者の達成状況が向上している点も素晴らしい。
			児童:83.4p 保護者:81.4p 教職員:86.0p	A	・体育委員会が計画し、全校でチャレンジランキングの「ドッチパスラリー」に取り組んだ。2学期以降も別の種目のチャレンジランキングに参加し、全校で運動する機会をもつことができるようにする。	児童:82.9p 保護者:81.1p 教職員:87.3p	A	・2学期は、チャレンジランキングの「ボール送り」に各学年で取り組んだ。ランキングを掲示することで、上位を目指して取り組むという意識を高めることができた。 ・3学期は、長縄のチャレンジランキングも取り入れる。今後は、運動委員会が各クラスの取組状況を知らせるなど、運動する意欲を高められるような呼びかけも行っていきたい。	自己評価は適切である チャレンジランキング等児童の内的動機づけにつながるような取り組みが成果につながっている。今後、より有効な活動となるように、このような活動への参加を苦手とする児童へも目を向け、児童一人一人への配慮に関する取り組みにも期待したい。
3 確かな学力の育成	【すんで学ぶ子】 ⑤児童が主体的・対話的で深い学びを実践確かな学力が身に付けることができるように授業改善を行う。特に、考える活動や書く活動を重視する。 ⑥朝学習や総小チャレンジタイム、家庭学習の充実を図り、基礎学力の定着を目指す。	⑥自分の考えや振り返りを書いているという回答が85ポイント以上である。 【児童・教職員】 【学力向上】	児童:85.2p 教職員:88.7p	A	・声掛けを続ける。教員側が意識をして、振り返りまでで1単位時間という意識をもち計画をする。 ・書けない児童に個別に声掛けをする。 ・低学年では、言葉で伝えることから始めて、書けるようにしていく。個別に支援がいる児童は、最初は教員が書いてやるの可とする。	児童:84.9p 教職員:89.6p	B	・教職員の意識は上がってきている。意識して声掛けはできているので、そのまま続ける。 ・振り返りの視点を示している「わが・と・も・へ」をしっかりと意識して声掛けをする。低学年は視点を決めて書かせることもする。	自己評価は「B」であるが、「A」が妥当である 児童の達成状況は、ほぼ達成基準に達している。また、現状に関する分析が丁寧になされ取り組みの改善が行われている点を評価することができる。
			教職員:77.0p	B	・単元に入る前に学年で指導の重点を共通理解する。 ・授業の着地点(まとめ)を明確にさせてから臨む。 ・授業では理解しているように感じるが、定着に課題がある。宿題でその日学んだことを徹底して出すようにする。 ・時間をおいて復習する。	教職員:76.0p	B	・教材研究ノートを作る時に、テストの採点の答えを見て、データをもとに、苦手なところを確認して授業に生かす。 ・単元に入る前には、学年会で教材研究をしっかり行う。	自己評価は適切である 今年度の取り組みに関する詳細な分析が必要ではないだろうか。 児童のデータを基にした授業改善の取り組みを評価することができる。 引き続き、改善策の継続した取り組みに期待したい。
			児童:85.5p 保護者:76.7p 教職員:82.1p	B	・11月号の学年便りで統一して啓発をしてもらう。(メディア週間にも意識を継続してもらうために) ・学校便りにも啓発文を入れてもらう。	児童:85.7p 保護者:73.2p 教職員:84.0p	B	・家庭学習時間を到達していない児童がいる。啓発をすることはもちろん、自主学習ノートをするよう声掛けをする。 ・引き続き自主学習ノートの掲示をしていく。	自己評価は適切である 保護者の達成状況が低い点についての分析を行い、改善策を検討していただきたい。 保護者は児童の家庭学習のすべて様子を見ることができない点に配慮した調査項目の設定が必要ではないだろうか。
4 地域とともにある学校づくり	⑦各種の便り、ホームページの更新、学校評価、学校公開等により、積極的に情報を発信する。 ⑧きらめきEASTの幼稚園、小・中学校や家庭・地域・関係機関等との連携を深め、児童の健やかな成長を図る。	⑨学校から積極的な情報発信が行われているという回答が85ポイント以上である。 【保護者・教職員】	保護者:85.2p 教職員:85.6p	A	・ホームページで学校や学級での子どもの様子をよりタイムリーに発信することができるよう、各学年のページ更新を積極的に行う。 ・東中学校区で連携し、幼稚園、小・中学校の交流授業等を実施し、便り等とおして幼小中連携の様子を家庭にも発信していく。	保護者:84.4p 教職員:85.6p	B	・ホームページで学校や学級での子どもの様子をより積極的に更新ができるように、各学年の担当者がホームページ担当に月1回情報を提供し、各学年はQRコードと投稿内容について2学期より位置付ける。 ・きらめきEAST幼小中系統表を東中学校区で作成したので、新1年生から生活規律や学習規律について家庭に発信していく。	自己評価は適切である ホームページによって積極的な情報発信を行うための改善策の取り組みを評価することができる。今後も継続して取り組んでいきたい。 加えて、ホームページの有用性についての検証により、本項目において評価すべき事項の検討もしていただきたい。学校が意図として発信している情報についての周知も必要ではないだろうか。
			児童:88.9p 保護者:87.6p 教職員:92.8p	B	・2学期初めに地区担当が通学班の集合場所や通学路の確認をする。 ・学校支援ボランティアと協力して、登校は校長と生徒指導担当が自転車で学区を見回り、下校は曜日ごとに担当学年が下校指導を継続して行う。 ・毎朝、校内放送で教頭が安心・安全な学校生活を送るよう声掛けをする。 ・委員会が廊下歩行や階段歩行について、校内放送をして全校で取り組む。 ・「地区協議会」について組織の構築をPTAと協議を進める。	児童:87.3p 保護者:86.0p 教職員:94.1p	B	・学校支援ボランティアと協力して、登校は校長と生徒指導担当が自転車で見回り、下校は曜日ごとに担当学年が下校指導を継続して行う。 ・毎朝、校内放送で教頭が安心・安全な学校生活を送るよう声掛けをする。 ・委員会が廊下歩行や階段歩行について、校内放送をして全校で取り組む。 ・「地区協議会」について組織の構築をPTAと協議を進める。	自己評価は適切である 学校支援ボランティアとの協力、管理職・生徒指導担当の教員を中心とした見守り、委員会の継続した取り組み等は非常に評価することができる。 今後地区協議会との連携についても期待したい。